



## 親が子どものお手本になる

富樫 広櫻(とがし・ひろえ)さん

留萌市交通安全女性指導員

規則正しい生活を送り、「あいさつ」がちゃんとできる子どもは、交通安全に対する意識が高いと思います。親は、子供の手本にならなければなりません。ぜひ、お子さんと交通ルールについて話し合ってもらいたいと思います。登・下校時における注意事項は次のとおりです。

- ①「おはよう」「さようなら」の挨拶をきちんとする。
- ②通学路をしっかりと守る。
- ③交差点では一度止まって、左右を確認してから渡る。
- ④信号機のない横断歩道では、一歩さがって左右の確認をする。
- ⑤道路のふち(緑石)を歩かない。
- ⑥話に夢中になったり、ふざけたりして車道へ飛び出さない。
- ⑦下校時はより道などをしない。
- ⑧雪玉を作って友達同士ぶつけあわない。
- ⑨動作を機敏にする。
- ⑩自動車に乗っていて横断歩道・交差点では自転車を押して渡る。
- ⑪自転車は左側通行

以上のことを踏まえて、お子さんと一緒に通学路の点検をしてみてください。どのようなことが危険なのかを繰り返し指導し、子供たちを事故から守りましょう。

交通安全についてのお問い合わせはコチラ

市役所生活福祉部生活環境課

☎42・1806(内線124・125)

留萌警察署 交通課

☎42・0110

留萌市交通安全協会

☎42・8711

## 平成17年春の全国交通安全運動

ストップ・ザ・交通事故死～めざせワーストワン返上～平成17年4月6日～15日の10日間は「春の全国交通安全運動」です。

春の全国交通安全運動では、「子どもと高齢者の交通事故防止」を基本とするほか、「二輪車の安全利用の推進」と「シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底」を全国重点と定め、交通安全運動を推進していきます。

## 子どもに多い歩行中や自転車の事故

15歳以下の子どもの交通事故死者数は、近年、減少傾向にあります。その一方で、交通事故による負傷者数は増加しています。



子どもの交通事故で最も多いのは歩行中です。歩行中の事故のうち、歩行者側の原因をみると、「飛び出し」「横断歩道」「信号無視」が主なものとなっています。また、子どもの交通事故では、自転車乗用中の負傷者が多いのも特徴の一つです。

自転車側の原因をみると、「安全運転義務違反」「一時不停止」「信号無視」が主なものとなっており、歩行中、自転車乗用中いずれも基本的な交通ルールの違反が多数を占めています。子どもの交通事故のうち、特に六歳未満の幼児については、自動車同乗中に死傷するケースが最も多く、チャイルドシートの使用の徹底が求められています。

## 子どもと一緒に見直す交通ルールの大切さ

子どもが交通事故に遭わないためには、子ども自身が交通安全に対する意識をもち、交通ルールをきちんと守ることが何よりも重要です。新入学という時期は、



そうした交通ルールを身につける、とても大切な時期でもあるのです。

交通ルールは、交通事故を起こさないために、歩行者、自動車、自転車など、道路を利用する人みんなが守らなければならない大切な約束です。道路を歩くときは歩道を歩く。歩道のない道路では右側を歩く。横断するときは左右を確認する。横断歩道以外で横断しない。赤信号では横断しない。日ごろから、子どもと一緒に身近な道路を歩きながら、こうした基本的な交通ルールの大切さを一つ一つ教えていきましょう。また、子どもは大人の行動を見ながら物事を覚えていきます。大人自らが交通ルールを守り、子どもたちのお手本となるようにしましょう。

## 親子で知ろう・考えよう

# 交通ルールの大切さ

春は新入学の季節です。新一年生は道路の一人歩きもまだ不慣れ。毎日通う学校までの道路にも危険や不安がいっぱいです。子どもを交通事故から守るためには、子どもに交通ルールの大切さを教え、きちんと守らせることが大事です。子供と一緒に、身近な道路を歩きながら、交通安全を確認しましょう。

